

2級 第15回 学科試験問題の傾向・レベル分析と今後の対策

【総評】（第14回との比較）

	分析	対象問題	対策
A	各科目・範囲の出題数に、変化はみられない		
B	「一般的な知識」ではなく「詳細な知識」を訊いており、1級学科試験よりも難易度が高い科目・範囲・問題がある	問1、問2、問5、問10、問33、問34	③④参照
C	1級学科試験と全く同じ選択肢が出題されている	問36	
D	「試験の科目・範囲・細目」にない理論などの細かい知識・数字や各論に踏み込んだ内容の出題がある	問22、問33、	①②③④参照
E	1科目、3科目、4科目は例年並みの内容とレベルである。4科目は他の科目・範囲や過去の出題と重なる内容が多い	問43、問44、	①②③④参照
F	「日本語」やその「語感」で正解肢がわかる出題がある	問41、問47、	⑤参照

【科目・範囲ごとの出題数（ ）は第14回からの増減）、難易度】

科目	範囲	出題数（ ）	難易度
1 ①	社会・経済的な動向とキャリア形成支援の必要性の認識	2（±0）	中が2問
1 ②	キャリア・コンサルティングの役割の理解	1（±0）	易が1問
1 ③	キャリア・コンサルティングを担う者の活動範囲と義務	2（±0）	中と易が各1問
2 ①	キャリアに関連する理論の理解	4（±0）	難と中が各1問、易が2問
2 ②	カウンセリングに関連する理論の理解	3（±0）	難・中・易が各1問
2 ③	自己理解に関する理解	3（±0）	中が1問、易が2問
2 ④	仕事・職業に関する理解	3（±0）	中が1問、易が2問
2 ⑤	職業能力開発に関する理解	2（±0）	難と易が各1問
2 ⑥	雇用管理（人事管理・労務管理）に関する理解	3（±0）	難・中・易が各1問
2 ⑦	労働市場に関する理解	2（±0）	中と易が各1問
2 ⑧	労働法規、社会保障制度に関する理解	2（±0）	難と中が各1問
2 ⑨	学校教育制度、キャリア教育に関する理解	1（±0）	易が1問

⑩	2	メンタルヘルスに関する理解	3 (±0)	易が3問
⑪	2	ライフステージ、発達課題に関する理解	3 (±0)	難が1問、中が2問
⑫	2	転機に関する理解	1 (±0)	中が1問
⑬	2	相談者の典型的・個人的特性に関する理解	1 (±0)	易が1問
①	3	基本的スキル	3 (±0)	難が1問、中が2問
②	3	相談実施過程において必要なスキル	3 (±0)	中が2問、易が1問
①	4	キャリア形成、キャリア・コンサルティングに関する教育、普及活動	2 (±0)	易が2問
②	4	環境への働きかけの認識と実践	2 (±0)	中と易が各1問
③	4	ネットワークの認識と実践	1 (±0)	易が1問
④	4	自己研鑽・スーパービジョン	2 (±0)	中が1問、易が1問
⑤	4	キャリア形成支援者としての姿勢	1 (±0)	易が1問

【今後の勉強への指針】

対 策	
①	合格ライン（70点）を確実にクリアするために、「毎回出題される」「頻出の基本的・基礎的な内容」「得点できる科目」を確実に理解し、得点する
②	「今回初めて出題された範囲」や「細かい知識や数字」にとらわれるよりも、「2級キャリア・コンサルティング技能士」が実務を行う上で必要な、「基本的かつ基礎的知識」を中心に習得する
③	「過去問」とともに「キャリアの赤本」を活用し、必ず押さえておくべき「頻出分野」や「頻出項目」を把握して確実に得点できるようにしておく
④	学科試験対策用テキストである「キャリアの青本Ⅱ」を活用し、基本的・基礎的な知識の正確かつ「確実な定着」を得る
⑤	試験に慣れて、「日本語の語感による正答（例：必要がない、必ず等）発見」のテクニックや時間配分の技術、ケアレスミスをしらない方法を体得する 例：「最適な」「だけ」「かならず」「のみ」・・・等 強調する語彙や決めつける語彙は要注意！

以上